農村RMO 関係府省施策の活用 （星の広場（岩手県奥州市））

― 地区の背景 ―

平成18年(2006年)
北股小学校の廃校

翌年、地区の地域運営組織「北股地区振興会」が設立。地区センター(公民館的位置づけ)としての活用がスタート

↓

地域運営組織が、地域活動の一翼を担ってきた

平成20年(2008年)～
第一次地区コミュニティ計画の策定

地域の目指す将来像や、まちづくりの重点施策、目標などを制定(現、第四次計画(R3～R7))

↓

将来の活動方針が議論・整理されてきた

平成26年(2014年)～
大学と連携し、住民アンケート調査を実施

地域における生活上の「手伝ってほしいこと」と、それに対する「手伝えること」について、住民の声を踏まえ分析・協働で研究

↓

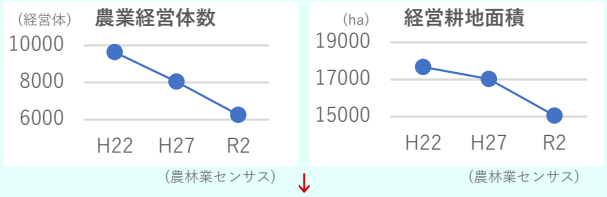
学生ボランティア活動のきっかけに繋がった

平成30年(2018年)
ボランティアのマッチングに向けた取組

地区センターが、アンケート等で把握した困りごとに対し、外部及び内部ボランティアのマッチングを実施。計185名が活動

↓

公民館活動を通じた大学との連携が、地域の労働力を補う結果となった



↓

多様な人材による農地利用の必要性

― 課題解決に向けた関係府省等の施策の活用 ―

地区センター(公民館)との連携 ※ 令和4年度 優良公民館表彰受賞(文部科学省)

【取組内容】
・地域づくりに関する事業、健康講座、防災訓練、スマホ教室、広報の発行 等
・事務局の「北股地区振興会」が、奥州市より地区センター(公民館)指定管理業務(H29～)を受託

【農村RMOとの連携につながる部分】
・大学生を中心に、地区内外の多様な人材のネットワーク構築(北股フレンズ)
・地域づくり拠点としてのノウハウを活用した、ボランティアセンターとしての高齢者支援

奥州市地区センター

地域住民の主体的な特色ある地域づくり活動及び自主的な学習活動を支援するために設置。

市内には30のセンターがあり、全て、指定管理者により管理されている。

奥州市では、平成24年の条例改正により、公民館(管轄:教育委員会)を、地区センター(管轄:協働まちづくり部地域づくり推進課)へ変更。

「地域づくり」に関する課題

令和5年6月12日(2023年)
星の広場設立

奥州市衣川北股地区における農用地等の保全、地域資源の活用、農山村の生活支援に係る調査分析等を元に、地域資源を活用した事業の創出や発展並びにその解決に必要な人材の確保や育成を行う等、中山間地域の特色を活かした多様な取り組みによる地域の活性化や農業振興を目指す(規約より)

R5農村RMOモデル事業に申請・採択

(体制図)
星の広場

協議(構成団体)	実行
・北股地区振興会 ・奥州市社会福祉協議会 ・各集落協定 ※ 北股地区は、全域が中山間直払の対象エリア	・総務部 ・福祉部 ・生涯学習・スポーツ部 ・産業振興部

「農用地保全等」に関する課題

農村RMOモデル形成支援事業(農水省)

【今後の取組方針】
・鳥獣害対策の取組
・草刈り作業の負担軽減に向けた取組
・特産品の試験栽培と製品開発
・地域資源の有効活用
・高齢者支援体制(地区全体)の構築　等

「地域人材の不足」に関する課題

地域おこし協力隊(総務省)
大学生を中心としたボランティア活動

【取組内容】
・地域おこし活動、ボランティア活動

【農村RMOとの連携の可能性】
・農業やイベント活動、情報発信等
・ボランティアによる関心・活動人口増加

「ボランティア受入れ」に関する課題

地元民間企業や大学との連携

【取組内容】
・学生への社用車の無償貸与

【農村RMOとの連携の可能性】
・ボランティアが来る際、交通面での調整

※令和5年度(初年度)は、今後の取組に向けたビジョンを作成中